

JUGLER セッション 4

若手医師と臨床研究、論文執筆などのアカデミック活動について
議論するシンポジウム

臨床研究の未来を探る ―総合診療と Society 5.0―

座長：多胡 雅毅（佐賀大学医学部附属病院 総合診療部）

鋪野 紀好（千葉大学医学部附属病院 総合診療科）

ディスカッサント：志水 太郎（獨協医科大学 総合診療医学）

高橋 宏瑞（順天堂大学医学部 総合診療科）

○佐々木 陽典

東邦大学医療センター大森病院 総合診療・急病センター

○織田 良正

社会医療法人祐愛会織田病院 総合診療科

○近藤 猛

名古屋大学医学部附属病院 総合診療科／名古屋大学医学部附属病院 卒後臨床研修・キャリア形成支援センター

JUGLER セッション 4

若手医師と臨床研究、論文執筆などの アカデミック活動について議論するシンポジウム 臨床研究の未来を探る －総合診療と Society 5.0－

我々が日々実践している臨床知を研究によってエビデンスとして示すことは、一医師として、一科学者としての責務である。また我が国の総合診療領域から現場で役立つ良質なエビデンスを多数積み重ねて行くことが、本領域の専門性の確立、ひいては医療の質の向上につながる。この理念に基づき、日本病院総合診療医学会の専門医プログラムの柱には研究が含まれており、専攻医には学術活動の実践が求められている。研究を活性化するためには若手研究者の育成が不可欠だが、総合診療領域では研究者育成のリソースが整っておらず、研究してみたいと思っているが方法がわからず、断念する若手医師が多数存在するのではないだろうか。

そのような現状を踏まえ、本シンポジウムでは臨床研究の経験が豊富な JUGLER (Japan University General Medicine Leadership and Education Roundtable) がパネリストを務め、総合診療領域で臨床研究を実践しており、病院総合診療専門医プログラム専攻医の良きロールモデルとなっている新進気鋭の医師にシンポジストとして登壇してもらってきた。今回のシンポジウムでは Society 5.0 での重要課題と関連する IoT、AI などのテクノロジーとビッグデータの臨床研究における活用に関する議論を通じて、総合診療の臨床研究の未来について議論を深める予定である。本シンポジウムが総合診療医学領域の若手研究者のリサーチマインドを刺激し、領域のさらなる発展に貢献できれば幸いである。